

社会福祉法人つるかわ学園 町田通勤寮

〒194-0045 東京都町田市南成瀬 1-5-3

電話 042 (739) 0491

巻頭言

いつものようにスポーツの話題から。

寮長 三階 広明

サッカーのアルゼンチン代表メッシ選手が、代表からの引退を表明しました。彼は、FIFAの年間最優秀選手賞(バロンドール)を何度も受賞しているにも関わらず、代表での優勝がないことから「無冠の帝王」とも言われています。どんな競技にしろ「頂点に立つ」には実力と共に「何か」を持っていないと難しいのでしょうか。

さて、リオのオリンピック・パラリンピック開幕まであと1ヶ月をきり、いよいよカウントダウンが始まりました。ニュースでは施設整備の遅れや治安面での不安が指摘されていますが、参加する全ての選手の健康を祈っています。日本選手の成績に一喜一憂することなく、全ての選手がベストを尽くし、互いにリスペクトできる大会になることを期待しています。

ところで、今日は参議院議員選挙の投票日です。皆さん投票はお済みでしょうか。それとも、この後お帰りになってからでしょうか。18歳選挙権が実施されますが、社会保障、消費税、景気対策、復興対策・地域振興、多くの課題が山積しています。その中で日本の「福祉」がどの方向に進んでいくのか、利用者の人権保障という視点でしっかりとみていきたいと思えます。

ちなみに、7月31日は東京都知事選挙の投票日になりました。知事の任期は4年ですので原則的には4年に一回ですが、今回のことを含め4年間で3回目の知事選挙です。1回の選挙に50億円もかかることがニュースになりましたが、その意味では100億円が余分にかかっているという計算になります。その1割でいいので「福祉」予算に回してくれたら・・・と思ってしまうのは私だけでしょうか。

町田市障がい者グループホーム等連絡会定例会報告

サービスマネジメント管理責任者・主任支援員 谷本 洋

今回は「グループホームにおける余暇支援について」というテーマで行われました。定期的な行事が催される通勤寮とは異なり、グループホームは地域生活であるため、自然と参加されるイベント自体が少なくない、利用される皆様の楽しみも限定されてしまいがちです。そのため、日頃から一人一人のニーズを汲み、余暇に活かすことが、生活に潤いをもたらす、日々のモチベーションとなります。

今回は町田市内2つの法人から、余暇支援の現状や、活用できる社会

資源の紹介・活用方法などを報告していただき、また参加された各事業所同士による情報交流も行われ、活発な意見交換がなされました。その中でもガイドヘルパーを積極的に活用されているY法人の報告にありました余暇活動に対する方針「日常生活の中で様々なニーズにこたえていくことが大切」「ホームの職員が余暇支援のすべてを担うのではなく、様々な社会資源を利用して入居者の余暇が充実していくよう調整することが大切」「ホームの本業は日常の支援であり、どこまで余暇活動を行うのか、どこで線を引くのが課題」という視点が非常に参考になりました。我々支援員は利用者向き合う中でどうしても α の支援に偏りがちになります。仕事をする上でその思いはとても大切でありながらも、一方で、客観的に「過干渉ではないか」「ニーズを逸脱しているのではないか」の検証が必要です。本来の自分たちの役割を誠実にこなすことが大前提であり、また、活用できる資源を掘り起こすことで、利用者と地域とが結びつくことが出来ます。昨今叫ばれている様に、福祉の現場において利用者支援に携わる仕事は確かに重労働とも言えます。ただし、地域にある活用できるツールを把握しているだけでも、いざというときに役立つものであり、また定期的に活用することで、効率的に利用者支援の幅を広げることが出来ます。

我々グループホーム等連絡会では、これからも現場で苦悩されている支援者の皆様に、より有意義な情報や技術が提供できるよう、また、支援者同士の横のつながりを深めることで、心の支えとなるよう、コーディネートしていききたいと思えます。それが結果として利用者の皆様へのより良い支援に繋がることとなります。今後も町田市障がい者グループ

ホーム等連絡会の運営・活動にご理解・ご協力よろしくお願いたします。

東京都障害者スポーツ大会 ボーリングの部

主任支援員 武智 里峰

5月29日(日)、田町の東京ポルトボールで大会があり、二名の男性利用者が参加しました。一人は、二十歳未満の部で参加。普段、緊張する姿は見られませんが、当日は落ち着かない様子だったのが印象的でした。全国大会を目標とし本番に向けて必死に練習してきました。本番では調子の良い時と悪い時が交互にあり、なかなか練習時の力を発揮するに至らず、本人もかなり悔しい思いをしていた様子でした。それでも6名中、2位の好成績でした。

もう一人の方は、二十歳以上の部で参加しました。かなり緊張していた様子でした。投球がガーターに入ってしまうと、どうしてよいか分からず、助けを求めるときの様に職員の所に近寄り助言を求めてくる事もしばしば。その後、同じレーンにいたボランティアの方にも教えて頂きながら、ゲームを進めていきました。練習通りにはならないのが本番ですが、初めての参加で、慣れない場所・雰囲気にも関わらず、一生懸命頑張っていた姿が印象的でした。成績は6名中6位でしたが、メダルを貰え、満足したようです。二人とも重々しい雰囲気の中でプレイし普段味わえない緊張感を体験し、良い経験となりました。

支援員 新井 政暁

5月28日(土)に駒沢オリンピック公園・陸上競技場での陸上競技(1500m)、同体育館での卓球競技に各一名ずつ、計二名の利用者さんが参加されました。

1500m走は当日のプログラムの最後でしたが、利用者さんは他の種目を熱心に眺めたり、ウォーミングアップで緑あふれる駒沢公園内をランニングするなど、有意義な時間を過ごされていました。本番ではスタートからゴールの瞬間まで、安定したペース・リズムで走り切り、走り終わった後も涼しげな表情を崩さない様子が印象的でした。「来年も参加してみたいですね。」と仰っており、充実した時間を過ごせたようでした。

また卓球競技に参加された利用者さんは、周りがほぼ高校の卓球部、それぞれお揃いのユニフォーム、コーチ付きといった環境の中、初めはかなり気後れしておられました。いざ試合が開始しても、第1セットを0-11で落としてしまうなど、不安な立ち上がりでした。しかし徐々に本来の動きを取り戻した結果、強豪相手にフルセットの熱戦に持ち込むことができました。結果は惜しくも敗退してしまいましたが、戦い抜いた充実感を強く漂わせていた姿が印象的でした。優勝や入賞といった結果を手に入れることはありませんでしたが、2名ともに「次回もぜひ参加したい。」と語ってくれ、とても貴重な経験が得られたように感じました。

調理員 遠藤 小百合

6月19日(日)に調理実習を行いました。簡単に作れるピザのレシピを利用者さんに教わったので、今回実践してみました。他に豆腐団子のスープ・かぼちゃのサラダ・ミルクチョコプリンを作りました。

ピザの半分はミックスベジタブルとウィンナーを使って馴染みのある味に、もう半分は豆腐と魚の水煮缶を使って和風仕立てにしました。生地は手でこねた後、発酵させず、フライパンで空焼きします。具材のせ、もう一度フライパンで焼けば出来あがり。空焼きした生地は冷凍保存もできるので、多めに作っておくと便利です。スープの豆腐団子は鶏のひき肉と豆腐に、葱・すりおろし生姜と片栗粉を混ぜ合わせるのでふんわりさっぱりとした口当たりになります。夏にもおすすめのスープです。

参加した方が二名だったせい或少し忙しい調理実習となりました。途中弾力のある生地を伸ばすのに悪戦苦闘されていました。が上手に焼けたピザを目にした瞬間、笑顔がこぼれ出来栄えに大きくうなずいていらっしゃいました。そして今回はいつも増して後片付けがきれいにされています。素晴らしいことです。次回は8月21日を予定しております。みなさまのご参加お待ちしております。

ここ数ヶ月、研修のため、電車で新宿へ行くことが何度ありました。田舎育ちの私は未だ新宿駅の雑踏に慣れず、毎回乗り換えに遭難しそうになります。携帯電話で検索しながら目的地に向かうのですが、数分経つと別の路線で案内されるのに翻弄されます。

同じ目的地に行くのに何本も路線があることは本来なら便利なことで東京では当たり前ですが、私には迷うという不便さがあり、田舎なら一本しかないから迷わないのに…といつも思っています。福祉職に就き既に何年も経っている私ですが、何日かの研修で基礎の基礎を学んだ気がします。ニーズとは…要望・希望。エンパワメントとは…ストレンクスを引き出すこと。ストレンクスとは…その人が本来持っている力・可能性、リフレーミングとは…見方を変える・ポジティブに考える。

言葉や意味は知ってはいましたが、この言葉の意味がいかに重要なことかを改めて考えさせられました。仕方ないとあきらめることもあったかもしれない。必要以上に過保護になっていたかもしれない。自分が絶対正しいと思っていたかもしれない。福祉の仕事は一人では解決できないし、日々悩む事ばかり。自分とは違う考えを批判したいこともあるかも知れませんが、なぜ違うのかと自分自身の考えを見直す事が出来ること。どんな事でも話しあうこと。向き合うことが大事だということ。そんなことを学んだ何日間でした。

つるかわ学園では45名(男性23名・女性22名)の方が入所利用しています。合わせて短期入所事業として4名枠(男女合計)があります。入所利用者の方は日常生活の中で食事・入浴・余暇・日中活動等で必要な支援を受けており、支援者は個々のニーズに合わせて、生活の質の向上・生活の幅を広げられるよう支援しています。

学園では一年を通し様々な行事を設定しています。恒例行事として①運動会(5月)②夏企画(8月・緑日・盆踊り大会等実施)③ふれあいまつり(26年度までは福祉バザーとして運営。11月)④クリスマス会(12月)があり、個々の利用者に合わせてどなたでも楽しめるよう開催しています。①②に関しては利用者の高齢化に伴い、現在は規模を縮小して行っていますが、これらの行事は利用者の方もとても楽しみにされているものです。中でもふれあいまつりは学園行事の中でも地域との密着を重視した大きな行事となっており、催し物として、フリーマーケット・パン作り体験・音楽イベント等、各種様々な工夫を凝らし、楽しんでいただいています。毎年、当日の開催前には正門に長蛇の列が出来、開門と同時に並ばれた方はフリーマーケットスペースへと走って行かれます。それはまるでバーゲンセールの様で、人気商品(主に新品衣料)はあつという間に無くなる程です。

また学園内にパン工房もくもくてんというパン屋を展開しています。人気No.1はクリームパンで、学園内に開放しているトランポリンへ遊び

に來た子供たちがよく買っていくようです。また外販もしており、地域の通所施設や町田市役所などでパン販売をしています。外販は月1〜2回程度で不定期ですが、是非ご賞味下さい。

このようにつるかわ学園では利用者支援以外でも地域に密着し、地域と共に生きるという理念に基づいた事業展開しております。今年のおふれあいまつりは11月を予定しておりますので、興味のある方はぜひつるかわ学園にお越しください。

就労講座 会社から求められる人材になるには?

支援員 植竹 雄太

6月21日(火)、小金井市就労支援センター所長のポータル聡美さんをお招きし就労講座を開きました。「就労って?会社から求められる人材になるには?」とのテーマで45分程度のレクチャーを受けました。

内容としては、①就労支援センターとは②働くために必要なこと③働くための心がまえ④働き続けていくために⑤働くために必要な力を説明いただきました。就労支援センターは、通勤寮での生活を終え、GH生活や単身生活をする場合、就労面の相談に応じしてくれる支援機関なので、利用者のみなさんにとって一生関わる機関になります。人見知りせずにご相談し、うまく役立てることが就労を長続きさせる秘訣になるでしょう。ポータルさんは働くための基本的な心がまえ、就労先でのあるべき態度をわかりやすく説明してください。一年目の利用者さんにとっては、とても参考になったのではないのでしょうか。二年目以降の利用者さんに

とっては、当たり前のことばかりだったと思いますが、「プライベートのわだかまりを仕事に持ち込んではいけない」という指摘には「はっ」とさせられる利用者さんも多かったのではないかと思います。

働くために必要な力について説明があった際に、職業準備性ピラミッドという図が紹介されました。有名なものですが、利用者さんには馴染みがないかもしれません。支援学校卒業時に実習を踏まえ就職しているので、適性に欠ける仕事に就いている方はいないのですが、「健康管理」や「日常生活管理」ができて、就労に悪影響が出てしまう方がおられ、とても残念に感じて来ました。通勤寮での生活は二年程度と限られたものですが、この間に一生働き続ける基礎を作って欲しいと願います。

職業準備性ピラミッド



町田通勤療自治会レポート

支援員 植竹 雄太

6月26日の自治会では、納涼会での司会進行について話し合いました。ボーリング大会の開会、乾杯、お開きの挨拶を務めるのは自治会メンバーの役割です。恥ずかしながら人前でしっかり挨拶するのは社会人としても重要なので、当日を期待しています。その後、就労講座の講師への御礼状を書いてもらいました。手紙の文面を考えるのに役員は苦労されていましたが、きれいな筆跡で立派な手紙を書くことができました。役員のみなさんご苦労様でした。

今後の予定

- 7月13日(水) オンブズマン(利用者相談)
- 7月15日(金) 保健・健康講座(食中毒予防)
- 7月16日(土) 納涼会(ボーリング・BBQ)
- 7月26日(火) 生活教養講座(KDDI安心ケータイ教室)
- 8月6日(土) 成瀬まつり
- 8月7日(日) 成瀬まつり
- 8月21日(日) 調理実習
- 9月11日(日) 保護者会 13:45より
- 9月25日(土) 宿泊訓練一日目(八景島シーパラダイス)
- 9月26日(日) 宿泊訓練二日目(湯河原)
- 11月12日(土) スピーチフォーラム(栃木県)
- 11月13日(日) スピーチフォーラム